

# まほろば**幸**いネット通信



第8号

H30. 2. 28 発

(トピックス)

## ◆「地域貢献活動推進フォーラム」を開催しました！

平成 30 年 2 月 6 日、奈良県文化会館において県内の社会福祉法人が一堂に会し、まほろば幸いネットの次のステップに向けてフォーラムを開催しました。開会にあたり、辻村会長からは、「地域貢献活動は社会福祉法人にとって必然的な取組である。我々社会福祉法人が高い志の旗を掲げ、どんな些細な SOS をも見逃さずすくい取る網となるよう、まほろば幸いネットを共に広げていこう」と、力強いご挨拶がありました。また、来賓の荒井正吾知事からは、まほろば幸いネットの取組に対して敬意を表されるとともに、「行政、民間法人、ボランティア等の連携による隙間のないきめ細やかなネットワークが大切であり、それが福祉分野の“奈良モデル”になるよう願っている」と、県内でこのような取組がますます発展していくことに大きな期待が寄せられました。



### (基調講演)



基調講演では、「社会福祉法人施設×社会福祉協議会×民生委員・児童委員がつながり、地域の課題を解決する仕組みづくり」と題し、香川おもいやりネットワーク事業事務局（香川県社協事務局次長） 日下直和氏からご講演いただきました。平成 27 年 4 月から「香川型福祉でまちづくり」を目指してスタートし、5つの事業の柱（①地域のネットワーク体制づくり、②総合相談・支援事業、③相談・支援担当者等の研修実施、④社会資源や新しいサービス開発、居場所づくり、権利擁護体制の推進、⑤香川おもいやりネット基金の創設）をたてて取り組んでこられた成果・課題等について、また、地域のニーズ把握や複合的な課題に幅広く対応するための取組として、施設、社協、民生委員・児童委員等それぞれが持つ機能を活かして受け止めるネットワーク構築や地域でのトータルサポートの仕組みづくりが必要であること等についてご講演いただきました。



### (パネルディスカッション)

「奈良県社会福祉法人共同事業が目指すべき今後の方向性を探る」をテーマに、辻村会長をコーディネーターに、趣旨説明を松下運営理事（奈良県社協事務局長）、各リーディング事業（地域食堂事業、ユニバーサル就労事業、レスキュー事業）を実践する法人から3名がパネリストとして登壇し、これまでの取組の成果・課題等の報告がありました。（福）奈良県手をつなぐ育成会 柏木氏からは、「地域貢献を法人事業の1つの柱に位置づけることが大事」、「法人間の温度差や考え方の違いはあるが、各法人の強みをどう活かすかが大事」、（福）祥水園 松本氏からは、「実務者チームの活動を通じて今までになかった行政や支援機関とのつながりができた」、「実践するのは各法人であるが、勉強会やワークショップの開催、実践の基本的な考え方や実務の整理など、参画法人がチームとして活動し、受入の裾野を広げる必要がある」、（福）奈良市社協 觸澤氏からは、「レスキュー事業をきっかけに地域の中で新しいネットワークが立ち上がった」、「地域貢献を実践する参画法人の主体性、体制整備、組織マネジメント、事業を継続するための財源が課題」などの発題がありました。



助言者の日下氏からは、社会そのものがソーシャルワーク的な取組や横断的なつながりを必要とする時代になってきており、そこを担うことが社会福祉法人の役割。一つひとつの実践の積み重ねと関係機関と



の連携や取組事例の発信が大切。法人が主体性をもって地域貢献に取り組むためには、その目的を明確にした上で職員を後押しする体制が必要であることなど、これまでの香川県の取組を踏まえたご助言をいただきました。

後半のディスカッションでは、松下運営理事より3つの問題提起（①事業の全県展開、②事務局機能の強化、



③財源確保の検討）があり、これまでの取組を踏まえた今後の方向性について議論が深められ、

- 法人の魅力の1つとして主体的に地域貢献活動を推進していくこと
- 全県展開にあたってはエリアマネジメント（圏域設定）の視点が必要なこと
- 地域のコーディネーター役として市町村社協の関わりが必要であること
- 実践するための法人内の体制整備や法人間の温度差を解消する必要があること
- 地域貢献を実践する魅力やメリットの発信など、内外に見える化させる役割が必要なこと
- 複数法人にまたがる事案や支援機関との連絡調整役が必要なこと
- 事業を継続するための人員配置や財源確保が課題。近い将来、会費制度の導入についての検討が必要になること

などが確認されました。

最後に辻村会長が、「奈良県社会福祉法人共同事業（まほろば幸いネット）の試みの大きな意義は、社会福祉法人の事業が社会福祉事業の枠にとどまるのではなく、どんどん広がることによって、事業そのものの中身がいろいろな人につながっていくことにあるのではないかと締めくくられました。

### （分科会）

最終のプログラムとして、4テーマに分かれて分科会を開催。会員法人をはじめ、県内外からゲストスピーカーをお招きし、リレートーク・実践報告・意見交換がされました。

- 第1分科会「社会福祉法人だからこそできるユニバーサル就労（中間就労）の実践」
- 第2分科会「食を通じた居場所づくりを考えるー地域食堂×こども食堂ー」
- 第3分科会「制度の狭間のニーズへの対応を考える」
- 第4分科会「地域生活を支える社会福祉法人による後見的支援」



第1分科会



第2分科会



第3分科会



第4分科会

今回のフォーラムは、まほろば幸いネットの設立から1年が経過したことを踏まえ、これまで取り組んできた実践の共有、成果・課題等の総括、そして、次の展開に向けて社会福祉法人が連携・協働することの強みや広域ネットワークが果たす役割等について共に考える機会になりました。ご参加いただきありがとうございました。

### （リーディング事業の取組）

#### ◆まほろばレスキュー事業

○「モニタリング実施に関する振り返り会議」及び「実務者リーダー会議」を開催

2/14（水）奈良市和楽園に於いて、昨年10月から12月にかけて奈良市で実施したモニタリングの結果を検証するための振り返り会議と実務者リーダー会議を開催しました。会議では、モニタリングをきつ

けに「法人同志や地域の民生委員・児童委員等との新たなネットワークが構築された」、「地域にある新たな課題が見つかった」などの成果があげられる一方で、「支援の判断に悩む」、「法人内での周知方法や体制整備が問題」、「既に何らかの支援を受けておられる人への対応方法」、「財源の問題」などの課題があがりました。リーダー会議では、これらの成果・課題を踏まえた上で全県実施に向けて調整することを確認しました。なお、モニタリング期間は終了しましたが、奈良市では引き続きレスキュー事業を先行実施することが合意されました。

### ○「実務者チーム会議」を開催

2/22（木）の実務者チーム会議では、モニタリングの検証結果や支援事例を共有するとともに、全県実施に向けた具体的な実施方法やスケジュールについて確認しました。

支援のエリアを5つの圏域（奈良圏域、西和圏域、中和圏域、東和圏域、南和圏域）に分け、同じ圏域内の参画法人が連携し、まずは参画法人が属している市町村で実施していくことが確認されました。

事業のスタートは4月1日。但し、関係機関への周知期間や法人内の体制整備等の準備期間を踏まえ、今夏までに完全実施できる体制を整えることで合意されました。会議終了後、圏域別に参画法人が集まり、今後の動きや流れについて話し合われました。



### ◆「たかとりふれあい食堂」を開催（地域食堂事業）

2/20（火）のふれあい食堂では、おでんとおにぎりが提供されました。同じ顔ぶれの参加者も増え、ふれあい食堂が徐々に地域に定着している様子がうかがえます。一方で、



若いご夫婦が様子を見に来られ、「次回は父を連れてきます」と、気にはなっているも様子がわからず参加を控えておられる人がいるということが分かり、気軽に参加できる雰囲気づくりが今後の課題として関係者間で共有されました。ちなみに今回のデザートはチョコレートフォンデュ、「おいしいわ、ちょっと甘いわ」などが飛び交うふれあい食堂でした。



次回は、3/20（火）、メニューはちらし寿司とお吸い物です。

（まほろば幸いネット会員加入状況【H30.2月28日現在】）

認証法人：88法人（施設法人67、社協21）

発行：奈良県社会福祉法人共同事業 事務局（奈良県社協 総務企画課内）

〒634-0061 橿原市大久保町 320-11 TEL：0744-29-0100/FAX：0744-29-0101

E-mail：[soumu@nara-shakyo.jp](mailto:soumu@nara-shakyo.jp) HP：<http://www.nara-shakyo.jp/publics/index/155/>

